

【オリエンタルコンサルタンツ 環境省「我が国循環産業の海外展開事業化促進業務」にてエコシステム・三谷産業とベトナムで廃瓦を利用した透水性舗装の試験施工を実施】



ベトナム・ハイフォンでの試験施工の様子

エコシステム

ベトナム向けに技術供与本格化

現地での透水性舗装試験施工

廃瓦のリサイクルシステムを全国で展開するエコシステム(石川県能登町)は、ベトナムで自社のリサイクルシステムを広めるべく、技術の供与に向け、本格的な活動を始めた。

同社は、環境省の2020年度および21年度、「我が国循環産業の海外展開事業化促進業務」の採択を受け、大手建設コンサル企業との連携。さらに埼玉大学、日本研究社(JST)も参画し、同大学内でも12月22日に透水性舗装を施工(約20平方メートル)を完了した。現在も、景観性や機能性(透水性・保水性等)の実証を進めている。舗装の下層に敷き詰めるRC-40および表面の透水性舗装断面等に関して、ベトナムにはまだ規格がないため、日本の舗装規格やJIS規格を適用した。

ベトナムは国家戦略の建設廃棄物に関する達成目標として「2025年リサイクル率60%」を掲げる一方で、現状のリサイクル率は1割に満たないという。JSTとJICAが共同で実施するSATRIPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)において、埼玉大学大学院理工学研究科の川本健教授とベトナム国立建設大学のクエン・ホアン・ツアン副学長による、ベトナム国家戦略達成を可能とする資源循環システムの構築を目指す共同研究が採択されており、22年度で研究開始から5年目を迎える。同研究にエコシステムも参画し、建廃リサイクル率の向上に貢献するとして、

「日本企業による適切なグッドプラクティス事例集」(経済産業省・2021年3月作成)に掲載。廃瓦・レンガによる機能性舗装材で、都市型洪水やヒートアイランド現象の抑制に貢献することが認められた。

国内の瓦リサイクル普及に尽力
こうした発展途上国への取り組みが、気候変動への適応を促す「適応レジリエンス」としても高い評価を受け、

日本国内では、「K-グランド」を組織し、加盟企業(計20社)によって33都府県に施工体制を敷く。瓦廃材を粉砕して骨材として利用した透水性特殊舗装「K-グランド」は、自然素材の活用による環境負荷の低減効果や、優れた景観性、透水・保水性、耐久性などが評価され、これまで代理店と合わせ、公共・民間工事で約30万平方メートルの施工を達成した。瓦リサイクルについての一般周知を進めるため、16年には(一社)瓦リサイクル協会を設立。石川環境フェアやエコプロ、新価値創造展などの展示会へ積極的に出展し、瓦チップの普及に尽力している。展示会場に訪れた児童からは瓦のリサイクルについて大きな関心が寄せられた。